平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月7日

上場会社名 東邦化学工業株式会社　　上場取引所　東
コード番号 4409　URL http://www.toho-chem.co.jp
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 中崎 龍雄
問合せ先責任者　(役職名) 取締役経理本部長　(氏名) 井上 豊　TEL 03-5550-3735

四半期報告書提出予定日　平成26年2月13日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	27,887	4.7	206	△75.9	410	△27.9	162	△44.0
25年3月期第3四半期	26,634	△2.1	857	△3.0	568	△2.4	289	186.1

(注)包括利益　26年3月期第3四半期　811百万円 (140.1%)　25年3月期第3四半期　337百万円 (―%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	7.61	―
25年3月期第3四半期	13.58	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	45,029	9,821	21.7
25年3月期	44,183	9,138	20.5

(参考)自己資本　26年3月期第3四半期 9,752百万円　25年3月期 9,076百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	―	0.00	―	6.00	6.00
26年3月期	―	0.00	―		
26年3月期(予想)				6.00	6.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成26年 3月期の連結業績予想(平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	38,000	8.0	360	△71.0	750	△33.4	380	△46.3	17.81

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　有
連結業績予想の修正については、本日(平成26年2月7日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
②①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	21,350,000 株	25年3月期	21,350,000 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	15,621 株	25年3月期	15,297 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	21,334,496 株	25年3月期3Q	21,334,983 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しておりません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予想情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期連結財務諸表 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 6
四半期連結包括利益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 7
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（セグメント情報等） …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第３四半期連結累計期間の我が国経済は、量的・質的金融緩和による円安の進展下、企業収益の改善に伴い設備投資が持ち直し、個人消費も消費マインドの改善から底堅く推移し、緩やかな回復の動きが幅広くみられました。海外経済も幾分弱めの推移ながら米国経済をはじめ先進国を中心に持ち直しの動きがみられました。

しかし、化学業界においては、新興国企業との競争が激化するなか、円安や原油高に伴う原材料価格の上昇が続き、原材料価格の上昇分を製品価格への転嫁で吸収出来ているかの度合いや輸出割合の違い等により、企業間の業績格差が鮮明になりました。

このような経営環境下、当社グループの当第３四半期連結累計期間の売上高は、第１四半期は製品需要が総じて低調に推移し苦戦いたしましたが、第２四半期以降、界面活性剤セグメントや化成品セグメントを中心に回復に転じ、増収を確保しました。

その結果、売上高は、前年同期比12億53百万円、4.7％増収の278億87百万円となりました。

しかし、利益面については、期初から続く原材料価格上昇に対する製品価格是正の遅れによる利益率の低下と、中国事業関連の経費負担の増加により、減益を余儀なくされました。

その結果、利益面では、営業利益は前年同期比６億50百万円減益の２億６百万円、経常利益は、円安に伴う為替差益があったものの前年同期比１億58百万円減益の４億10百万円、四半期純利益は、前年同期比１億27百万円減益の１億62百万円となりました。

セグメント別の状況は次のとおりです。

（界面活性剤）

トイレタリー用界面活性剤は、ヘアケア用基剤がやや苦戦したものの、一般洗浄剤が伸長し、増収を確保しました。プラスチック用界面活性剤は、主力の帯電防止剤の落ち込みを主因に減収となりました。土木建築用薬剤は、コンクリート用関連薬剤等が引き続き堅調に推移し、増収となりました。紙パルプ用界面活性剤は、消泡剤や脱墨剤が振るわず減収となりました。農薬助剤は、乳剤用などの海外需要向けが低調で減収となりました。繊維助剤は、染色助剤などの販売増を主因に増収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比３億83百万円、2.6％増収の150億27百万円となり、セグメント利益は、前年同期比３億95百万円減益の４億61百万円となりました。

（樹脂）

石油樹脂は、第２四半期以降、販売が持ち直し増収となりました。合成樹脂は、土木工事関連向けなどが伸長し増収となりました。樹脂エマルションは、金属表面処理剤や塗料・インク用などが低調に推移し、減収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比48百万円、1.8％増収の27億55百万円となり、セグメント損失は、２百万円（前年同期はセグメント利益19百万円）となりました。

（化成品）

合成ゴム・ＡＢＳ樹脂用ロジン系乳化重合剤は、第２四半期以降、海外向け販売が回復し増収となりましたが、ロジン原料価格の急騰に対し製品価格の是正が遅れ、収益が大幅に悪化しました。石油添加剤は、脱ロウ助剤や潤滑油用などの販売増を主因に増収となりました。金属加工油剤は、主力の水溶性切削油剤が低調だったものの、全体では増収を確保しました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比８億92百万円、28.2％増収の40億62百万円となり、セグメント損失は、48百万円（前年同期はセグメント利益37百万円）となりました。

（スペシャリティーケミカル）

溶剤は、ブレーキ液用や一般溶剤は伸長したものの、電子材料用や医薬品製造用が振るわず、若干の減収となりました。電子・情報産業用の微細加工用樹脂は、新規開発製品の販売寄与はありましたが、既存製品の第１四半期の出遅れが響き、減収となりました。アクリレートは、電子情報材料用の海外向け販売が低調に推移し、減収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比85百万円、1.4％減収の59億68百万円となり、セグメント損益は、減収影響に加え原材料高に対する製品価格の是正の遅れにより１億29百万円の損失（前年同期はセグメント損失40百万円）となりました。

（２）財政状態に関する説明

当第３四半期連結会計期間末の総資産は450億29百万円と前期末比８億45百万円の増加となりました。その内訳は、流動資産が３億12百万円増加の228億95百万円、固定資産が５億32百万円増加の221億33百万円です。

流動資産の主な増減要因は、現金及び預金が11億17百万円の減少、受取手形及び売掛金が10億95百万円の増加、たな卸資産が２億58百万円の増加です。

固定資産の主な増減要因は、有形固定資産が73百万円の増加、無形固定資産が１億35百万円の増加、投資その他の資産が３億23百万円の増加です。

一方、負債合計は、352億７百万円と前期末比１億62百万円の増加となりました。主な増減要因は、流動負債で、支払手形及び買掛金が５億54百万円の増加、短期借入金が４億23百万円の増加、未払法人税等が２億21百万円の減少、賞与引当金が１億93百万円の減少、固定負債で長期借入金が４億38百万円の減少です。

純資産は、98億21百万円と６億83百万円の増加となりました。主な増減要因は、利益剰余金が、配当金の支払と四半期純利益との差額の34百万円の増加、その他の包括利益累計額が６億41百万円の増加です。

その結果、自己資本比率は21.7％となりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

売上高は、回復基調が続き、数量、金額ともに平成25年11月８日公表の予想（以下、前回予想）を上回る見込みです。

利益面につきましては、製品価格是正の取り組み成果が、前回予想ほどには見込めず、また、中国（上海）工場の立ち上がりの遅れに伴う影響が想定を上回り、営業利益は前回予想を下回る見通しです。なお、同工場の正式な商業生産開始時期は平成26年４月を予定しております。

経常利益並びに四半期純利益につきましては、中国子会社での円安の進行による為替差益の増加の寄与により、前回予想を上回る見通しです。

なお、本業績予想の修正に関しましては、個別業績予想の修正も含め、別途本日（平成26年２月７日）付「業績予想の修正に関するお知らせ」において公表しておりますのでご参照ください。

２．四半期連結財務諸表

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成25年12月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,339	4,222
受取手形及び売掛金	9,214	10,310
たな卸資産	7,303	7,562
その他	726	801
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	22,583	22,895
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,963	8,748
機械装置及び運搬具（純額）	2,764	2,484
土地	3,281	3,281
建設仮勘定	3,619	2,334
その他（純額）	1,461	1,315
有形固定資産合計	18,091	18,165
無形固定資産	737	873
投資その他の資産	2,771	3,094
固定資産合計	21,600	22,133
資産合計	44,183	45,029

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成25年12月31日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,394	7,948
1年内償還予定の社債	1,200	900
短期借入金	5,301	5,724
未払法人税等	226	5
賞与引当金	332	138
その他	2,244	2,221
流動負債合計	16,698	16,938
固定負債		
社債	4,720	5,020
長期借入金	9,117	8,678
退職給付引当金	2,929	3,071
役員退職慰労引当金	134	117
資産除去債務	55	56
その他	1,389	1,324
固定負債合計	18,346	18,268
負債合計	35,045	35,207
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,755	1,755
資本剰余金	896	896
利益剰余金	5,974	6,008
自己株式	△3	△3
株主資本合計	8,621	8,656
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	303	555
為替換算調整勘定	151	541
その他の包括利益累計額合計	454	1,096
少数株主持分	61	69
純資産合計	9,138	9,821
負債純資産合計	44,183	45,029

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年12月31日）
売上高	26,634	27,887
売上原価	22,639	24,233
売上総利益	3,995	3,654
販売費及び一般管理費	3,137	3,447
営業利益	857	206
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	35	37
為替差益	－	405
その他	64	71
営業外収益合計	103	517
営業外費用		
支払利息	259	235
その他	132	78
営業外費用合計	391	313
経常利益	568	410
特別損失		
固定資産廃棄損	13	30
投資有価証券評価損	10	－
固定資産売却損	1	－
特別損失合計	25	30
税金等調整前四半期純利益	543	380
法人税等	253	219
少数株主損益調整前四半期純利益	290	160
少数株主利益又は少数株主損失（△）	0	△1
四半期純利益	289	162

（四半期連結包括利益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年12月31日）
少数株主損益調整前四半期純利益	290	160
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	38	252
為替換算調整勘定	9	398
その他の包括利益合計	47	650
四半期包括利益	337	811
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	337	803
少数株主に係る四半期包括利益	0	7

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間（自　平成24年４月１日　至　平成24年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	界面活性剤	樹脂	化成品	スペシャリティーケミカル	計				
売上高									
外部顧客への売上高	14,644	2,707	3,169	6,054	26,575	58	26,634	－	26,634
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	185	185	△185	－
計	14,644	2,707	3,169	6,054	26,575	244	26,820	△185	26,634
セグメント利益又は損失（△）	857	19	37	△40	874	52	926	△69	857

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、環境調査測定・分析及び物流倉庫業務等を含んでおります。

２．セグメント利益又は損失（△）の調整額 △69百万円には、棚卸資産の調整額 △46百万円等が含まれております。

３．セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書計上額の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間（自　平成25年４月１日　至　平成25年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	界面活性剤	樹脂	化成品	スペシャリティーケミカル	計				
売上高									
外部顧客への売上高	15,027	2,755	4,062	5,968	27,814	73	27,887	－	27,887
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	157	157	△157	－
計	15,027	2,755	4,062	5,968	27,814	230	28,044	△157	27,887
セグメント利益又は損失（△）	461	△2	△48	△129	280	44	325	△118	206

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、環境調査測定・分析及び物流倉庫業務等を含んでおります。

２．セグメント利益又は損失（△）の調整額 △118百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△235百万円及び棚卸資産の調整額 76百万円等が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

３．セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書計上額の営業利益と調整を行っております。